



# 東 侯 野 12月号

東侯野小学校 学校だより

平成28年12月1日

## その場にあった服装

校長 村田 幹男

金色のちひさき鳥のかたちして銀杏散るなり夕日の丘に 与謝野晶子

6年生の担任をしていた頃、国語の教科書に載っていた短歌です。比喻（たとえ）が分かりやすく、子どもたちに人気がありました。通勤に利用している道の銀杏並木を見てこの歌を思い出しました。寒くなりましたが、外に出てみると、すてきな景色がたくさん見つかります。

さて、先日の体育館での朝会時、私はスーツの上にフード付きの厚手のスポーツコートやマフラー、手袋をし、マスクまでつけた姿でステージに上がり、子どもたちに話をしました。

「今朝は、みなさんに変な目で見られている気がします。」と切り出した後、「大勢の前で話すとき、マスクをしたままでは変だよ。」「マフラーや手袋は、学校に行くときや帰るときにするもので、学校の中ではしないんだよ。」「あたたかいからという理由だけで安易にフードをかぶっていると、周りの音も聞こえにくくなるし、周りの様子も見えにくくなるから、危険だよ。」と、話をすすめていきました。そして、最後は「その場にあった服装を考えて生活しましょうね。」と結びました。

この話をしたのは、現に気になる場面に出くわすからです。授業中に厚手のジャンパーやダウンジャケットを着ていたり、体育の時間にマスクをしながら運動していたりする子などをたまに見かけるのです。「とった方がいいんじゃない？」と小声で言うと、「なぜ？」と返してくる子もいるからです。この間は、「暖房も入っているし、ジャンパー脱いだら？」と言おうとしたら、ジャンパーの下は半袖のTシャツだけだったという子もいました。寒がりの子も暑がりの子もいますし、ファッションも多様化していますから、画一的な指導は難しいこともありますが、一般的なマナーや常識については伝えたいので、個に応じていくことが必要と考えます。ご家庭でも、お子さんの服装、持ち物などについて、支援してあげてください。